

立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）
大学院学生研究
2 0 2 5 年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院	文学	研究科	英米文学	専攻
研究代表者 (2026 年 3 月現在 のものを記入)	在籍課程・学年		氏 名		
	☐ 博士前期課程 年 ☒ 博士後期課程 2 年		梅澤琉登		
指導教員	所属部局・職名		氏 名		
	文学部・教授		舌津智之		
自然・人文・社会の別	自然 ・ ☐ 人文 ☒ ・ 社会		個人・共同の別	☐ 個人 ☒ 共同 名	
研究課題	19 世紀中葉のアメリカ文学における政治表象				
研究組織 (共同研究者が いる場合のみ、 2026 年 3 月現在 のものを記入)	在籍研究科・専攻・課程・学年		氏 名		
研究期間	2 0 2 5 年度				
研究経費 (1 円単位)	(支出金額) 158,031 円 / (採択金額) 200,000 円				

研究の概要 (200～300 字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)
当該研究の研究目的を含むこと。
本研究は、19 世紀中葉のアメリカ文学作品に注目し、マイノリティーに対する作家はもとより当時の人々の態度を思想史・制度史・法制史的な観点から明らかにする。具体的には、文学作品に存在する、同時代の読者の政治的想像力を喚起させる表象に注目し、非文学的かつ非学問的な言説と並列的に扱うことで、作品がどのように読まれる可能性を有していたかを明らかにする。当時の人々にあっては、様々な社会的レトリックから少なくない影響を受けていた。よって、本研究は文学作品を歴史的に文脈化することで、当時の読者の受容を再現／再考し、現代の読者に失われた読みの可能性をよみがえらせることを目的とする。
キーワード (研究内容をよく表しているものを 3 項目以内で記入。)
[奴隷制] [福祉] [インターセクショナリティ]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

以下の視点を含めて記載のこと。

- ・当該研究は何をどこまで明らかにできたのか(できなかったのか)。
 - ・何をもって研究成果(経過)を達成できた(できなかった)と考えられるのか。
- 自身が設定した研究目的・目標に照らして、その根拠がわかるよう記載のこと。

本研究は、19 世紀中葉のアメリカ文学作品を歴史的に文脈化し、同時代の読者の政治的・社会的想像力を喚起しうる表象を、非文学的言説と並列的に分析することを目的として設計された。研究の核心的な方法論的立場は、文学作品を孤立したテキストとして閉じた形で解釈するのではなく、新聞・雑誌・行政報告書・法律文書・医学書・書評といった多様な歴史資料と横断的に並置することで、作品がいかなる読みの可能性を有していたかを再構成するという点にある。以下、この方針に照らして本研究の達成と課題を述べる。

本研究においてまず明らかにできたのは、文学テキストと同時代の非文学的言説とを並置するという分析手法の具体的な形式と有効性である。19 世紀中葉のアメリカにおいては、経済観・家庭観・子供観・移民観・人種観の変革と、公衆衛生・治安維持・労働環境への意識の高まりとが複合的に絡み合い、多様な社会制度が成立しつつあった。本研究はこうした歴史的過程を、文学作品と制度言説との相互浸透として読み解くことを試みた。具体的には、文学作品において省略されがちな個人の感情の機微や社会的想像力の構造を、当時の一次資料から抽出された言説と突き合わせることで補助線とし、作品の歴史的意味を多層的に照射する分析枠組みを構築した。制度に対する人々の感情のあり方、社会制度の対象者の身体性の描かれ方、制度の内面化といった分析軸は、この方法論の中心的な柱として機能している。

上記の方法論的立場は、ハリエット・ビーチャー・ストウの『アンクル・トムの小屋』(1852)を対象とした研究において具体的に展開された。査読付き論文「男同士の絆と女性の家事労働--*Uncle Tom's Cabin* におけるインターセクショナリティ」(『アメリカ文学：日本アメリカ文学会東京支部会報』86 号、2025 年)では、同作品における人種・ジェンダー・家事労働の交差的構造を分析した。ここでは、文学テキスト内に表出する「男同士の絆」の形成メカニズムを、女性の不可視化された家事労働という制度的・社会的現実と並置することで、作品が当時の読者に対していかなるジェンダー・人種秩序を自然化あるいは問題化しうる表象を提供していたかを論じた。こうした読解は、奴隷制批判の文脈のみに文学的意義を限定する従来の解釈を超え、インターセクショナルな権力構造の場として作品を再定位するものである。

口頭発表「語られぬ地図--*Uncle Tom's Cabin* における空間の人種的想像力」(日本アメリカ文学会東京支部 6 月例会、2025 年 6 月)では、「空間論的転回」の批評的潮流において注目される「メンタルマップ」の概念を導入し、作品内の地理的表象と同時代の人種的・社会的想像力との連動を分析した。メンタルマップとは、実際の地理からしばしばずれてしまう、人間の精神的な地理的距離感や方向感覚を検討する概念であり、文学作品における人物の移動表象が、当時の社会制度や人種観といかに連動しているかを読み解く上で有効な枠組みである。作品内の地理的表象と、同時代の地理書・旅行記・行政記録といった歴史資料とを並置することにより、文学的空間が人種的・制度的想像力によっていかに構造化されているかを明らかにした。この分析は、前述の査読論文と方法論上・対象上の連続性を持ちつつ、空間的分析という視角をさらに加えたものである。

研究成果の概要 (つづき)

口頭発表「まだら模様の犬とピムの不純性--『アーサー・ゴードン・ピムの物語』における伴侶種と混血の想像力」(日本ポー学会第 16 回年次大会、2025 年 9 月)では、ポーの長編小説における動物表象と人種的混淆の想像力を分析した。同作品における「まだら模様」という視覚的表象を、「伴侶種」という概念と接続しながら読み解くことで、人種的純粋性への不安が人間と動物の境界的関係性を通じていかに表出されているかを論じた。この分析は、当時の人種科学・自然史・民族誌といった非文学的言説と文学テクストとを並置することで初めて明瞭になる意味の層を掘り起こすものであり、生物学的・人種的カテゴリーの不安定性が 19 世紀前半のアメリカにおいて社会的・制度的実践といかに結びついていたかを示している。

口頭発表「“Yankee Doodle” の不協和音--エドガー・アラン・ポーの “The System of Dr. Tarr and Prof. Fether” とアンドリュー・ジャクソンの亡霊」(立教大学英米文学会、2025 年 12 月)では、精神病院の転覆と管理体制の崩壊を題材としたポーの短篇を、ジャクソン民主主義の政治的修辞および民衆的文化の言説と接続して読み解いた。患者・管理者・収容施設という制度的枠組みと、当時の政治演説・新聞記事・風刺文学といった一次資料とを並置することにより、文学テクストが当時の読者に対してどのような政治的・制度的想像力を喚起しうるものであったかを論じた。本研究が目指す「文学と行政の接点を精緻に描き出す」という目標に直接照応するこの分析は、制度収容と政治言説の問題を文化的記憶の次元において交差させるものである。

以上を通じて明らかになったことを総括すれば、本研究は文学テクストと歴史資料の並置という方法論を一貫して適用し、個別の文学作品が同時代の制度的・政治的言説の磁場においていかに読まれる可能性を有していたかを、複数の分析軸から具体的に示すことができた。この成果は、査読付き論文の刊行と複数の学会口頭発表として研究コミュニティに提示されており、本研究の目的である「現代の読者に失われた読みの可能性をよみがえらせること」への着実な前進を示している。

一方で、広範な一次資料調査を複数の文学作品・作家にまたがって体系的に遂行し、19 世紀中葉アメリカ文学における制度的表象の通時的・共時的構造を全体として描き出すという最終的な目標は、現時点では端緒についた段階にとどまっている。特に、個別作品の精緻な分析を超えて、複数の作家・ジャンル間に通底する心性や感情の構造を比較的に把握するという課題は引き続きの取り組みを要する。しかし、これらは研究の進行によって順次解消されうる課題であり、本研究の基本的な方向性の有効性は、これまでの成果によって十分に確認されている。

研究発表 (研究によって得られた研究成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。なお、成果発表を確認できる資料を合わせて研究成果報告書提出フォームより提出してください(紙媒体等、研究成果報告書提出フォームから提出できない場合は、別途リサーチ・イニシアティブセンターへ提出してください)。

- ①雑誌論文(著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書(著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催(会名、開催日、開催場所)
- ④その他(学会発表、研究報告書の印刷等)

※修士論文・博士論文は含みません。

①雑誌論文

・梅澤琉登、「男 同 士 の 絆 と 女 性 の 家 事 労 働 —— *Uncle Tom's Cabin* におけるインターセクショナルリティ」『アメリカ文学 : 日本アメリカ文学会東京支部会報』、通号 86、日本アメリカ文学会東京支部編、2025 年、(1-8 ページ)【査読あり】

④その他(学会発表)

・梅澤琉登、「語られぬ地図 —— *Uncle Tom's Cabin* における空間の人種的想像力」、「日本アメリカ文学会東京支部 6 月例会 分科会(近代散文)」、日本アメリカ文学会東京支部、2025 年 6 月 28 日。

・梅澤琉登、「まだら模様の犬とピムの不純性 —— 『アーサー・ゴードン・ピムの物語』における伴侶種と混血の想像力・The Mottled Dog and Pym's Impurity: Companion Species and the Vision of Hybridity in *The Narrative of Arthur Gordon Pym of Nantucket*」、「日本ポー学会第 16 回年次大会・第 18 回総会」、日本ポー学会、2025 年 9 月 13 日。

・梅澤琉登「“Yankee Doodle” の不協和音 —— エドガー・アラン・ポーの “The System of Dr. Tarr and Prof. Fether” とアンドリュー・ジャクソンの亡霊」、「2025 年度 立教大学英米文学会」、立教大学英米文学会、2025 年 12 月 20 日。